

## 令和6年度 岐阜県アレルギー疾患対策推進協議会 議事概要

日 時 令和6年10月15日(火) 11時から12時まで

開催方法 オンライン開催

出席者 磯貝 光治：(一社)岐阜県医師会 常務理事  
川本 典生：岐阜大学医学部附属病院小児科 准教授  
西垣 公順：(公社)岐阜県歯科医師会 常務理事  
岡田 昌子：(公社)岐阜県看護協会 専務理事  
鈴木 昭夫：(一社)岐阜県薬剤師会 副会長  
樋口 あゆみ：患者会代表(西濃アレルギーの会 HUG 代表)  
氏平 高敏：岐阜県飛騨保健所 所長  
田中 清香：岐阜市保健所地域保健課 主査

事務局 居波 由紀子：岐阜県健康福祉部保健医療課 課長  
今西 淳： // 課長補佐兼難病対策係長  
山内 倫子： // 技術主査

### 1. 報告事項

#### ○アレルギー疾患対策の実施状況等について

令和5年度の本県におけるアレルギー疾患対策の実施状況について事務局から報告

- ・市町村の母子保健事業におけるアレルギー疾患対策について
- ・学校でのアレルギー対応について
- ・災害対策について

令和5年度の拠点病院における取組の実施状況について川本委員から報告

- ・勉強会、市民公開講座、セミナー等の開催について
- ・学校現場のアレルギー疾患電子メール相談事業について

### 2. 議事

#### ○今後のアレルギー疾患対策の方向性について

今後、県として強化していく取り組みについて

→それぞれの立場から意見交換等を実施(主な意見等は別紙のとおり)

## 別紙

### 令和6年度 岐阜県アレルギー疾患対策推進協議会における主な意見等について

#### ■市町村の母子保健事業におけるアレルギー疾患対策について

- ・保護者への情報提供について、健診などの短い時期・少ない機会だけではなく、出生前・出生後の子育てコミュニティに保健師や栄養士が出向いて相談にのってもらえる機会が増えると良い。
- ・スキンケアの冊子配布は多くの市町村で実施されていると思われるが、それがアレルギーの予防に繋がっているという意識はないかもしれない。母子保健事業での取り組みを確認し、アレルギーの予防に繋がっているということを意識できるように共有したい。

#### ■学校におけるアレルギー対応について

- ・エピペン講習は多くの学校で実施されているが、実際の場面で不安なく対応できるためには、シミュレーションが重要。エピペンをどこに置くか。様々なシミュレーションをしてみると課題が見つかる。
- ・高校でも、給食はなくても修学旅行等でアレルギー対応が必要ということで、学校生活管理指導表の提出を求めているところが増えている。最近では、朝食や間食でのアナフィラキシーを学校で起こすことも増えており、学校生活管理指導表の提出は必要。
- ・持参したお弁当を冷蔵庫で保管し、温めずに提供されていることがある。子どもの精神面にも配慮した対応が必要。

#### ■災害対策について

- ・アレルギー対応食の備蓄は主食メインとなっている。おかずやおやつなどの主食以外の備蓄も増えると良い。
- ・災害支援ナースがアレルギー疾患に関する知識を持っているかどうかで対応が大きく異なるため、知識の啓発が必要。
- ・保健所と市町村が一緒に行う災害時の対応訓練で、アレルギー食品の備蓄について啓発されると良い。
- ・予算規模の大きい愛知県・東京都の取り組みが参考になる。防災部門との連携が必要。

#### ■成人期のアレルギー疾患対策について

- ・母子・小児保健での対策は進んできていると感じているが、成人期のアレルギー疾患対策が遅れている。患者、医師両方への普及啓発が必要。
- ・成人診療科のアレルギー専門医が少ない。課題が大きい。

#### ■その他

- ・エピペンに関しては、子どもの成長発達段階に応じて、保護者から子どもに対して、「命を守る大切なものだ」ということを伝えていけると良い。